

第 40 回日本毒性学会学術年会 概要

会 期：2013 年 6 月 17 日（月）～19 日（水）

会 場：幕張メッセ国際会議場 （千葉市）

交通： JR 京葉線「海浜幕張」下車 徒歩 5 分、JR 総武線「幕張本郷」下車 バス 15 分

テーマ：「医療・環境から学び、医療・環境へと還元する毒性学」

年会長：上野 光一（国立大学法人 千葉大学大学院薬学研究院）

内 容：

□招待講演

1. The Histamine H4 Receptor and Immune Function

Robin L. Thurmond （Johnson & Johnson Pharmaceutical Research & Development, L.L.C.）

□特別講演

1. 放射能汚染のリスクアセスメント:福島原発を例として

Roger O. McClellan （Advisor, Toxicology and Human Health Risk Analysis）

2. Integration of metabolomics and toxicogenomics to evaluate mechanisms of toxicity

Lois Lehman-MacKeeman （Bristol-Myers Squibb Company）

3. 薬の副作用と薬物トランスポーター

杉山雄一（理化学研究所）

4. FDA Voluntary Exploratory Data Submissions (VXDSs) and the new biomarkers through the multilateral collaboration of the pharmaceutical companies. etc (仮題)

J. Koerner （Division of Cardiovascular and Renal Products, US FDA, Silver Spring, MD）

5. New framework of Clinical Toxicology, leading to the risk minimization in the individual patient etc (仮題)

Syrlil D Pettit （HESI）

6. The new toxicology of sophisticated materials: Nanotoxicology and Beyond

M. A. Philbert （Michigan University）

□教育講演

1. ダイレクト MS を用いた一細胞分析による薬物代謝等の評価

升島 努（広島大学大学院 医歯薬保健学研究院）

2. Applying new safety testing paradigms and biomarkers to improve pharmaceutical productivity

Greg Stevens （Pfizer, Drug Safety Research & Development, La Jolla, USA）

3. 医薬品の臨床開発における統計学 (仮題)

上坂浩之（大阪大学未来医療センター）

4. ノッチシグナル：細胞の分化・増殖からガン化まで

伊藤基行（千葉大大学院薬学研究院）

□シンポジウム

1. 毒性評価への展開を図るエピジェネティクス研究
2. 放射線毒性学における課題
3. ナノマテリアルの評価手法開発における今後の課題（仮題）
4. 医薬品等の環境毒性評価に関する現状と今後の課題
5. 抗がん剤の副作用対策の進歩
6. 臨床関係者連携企画（日本製薬医学会，日本医薬品情報学会）
「ファーマコビジランス」非臨床・臨床ジョイントディスカッションによるヒトでの副作用リスク最小化へのチャレンジ- 実践編 「非臨床/トキシコロジストは，臨床最前線の医学専門家等との連携により最先端の科学技術に基づき副作用リスクをどのように読むか-心血管系副作用・腎機能系副作用」
7. 薬物乱用・依存性を考える
8. 毒性オミクス
9. *In vitro* を用いた創薬安全性評価とその外挿性
10. トランスポーターを介した薬物相互作用と安全性評価
11. DOHaD(Developmental Origins of Health and Disease)：後発的に顕在化する発達期の影響
12. 免疫毒性の最近の潮流

□ワークショップ

1. 毒性学からバイオオルガノメタリクスへのアプローチ
2. 食品中の化学物質についてのリスク評価法の現状と問題点
3. バイオ医薬品の免疫原性評価
4. ICH における光安全性評価ガイドラインの取り組みについて
5. 眼毒性リスク評価のサイエンス：お作法からの脱却
6. 腎毒性評価の新規手法：その基礎から臨床応用へ（仮題）
7. 毒性学の今後の展開のために： JSOT と米国 SOT 代表者とのフリーディスカッション

□委員会企画

1. 日本中毒学会との合同シンポジウム
非臨床・臨床試験結果は、ヒト急性（場合によっては慢性）中毒をどこまで担保できるかーヒトの急性中毒でみられる症状と非臨床・臨床試験結果との整合性ー
2. 学術広報委員会ミニシンポジウム 1 「若手研究者向け」
3. 学術広報委員会ミニシンポジウム 2 「就活学生のための安全性研究紹介」
4. 教育委員会企画「トキシコロジストの将来展望」
5. 年会特別企画「PMDA薬事戦略相談とは何か？」

□サテライトシンポジウム

1. 臨床関係者連携企画（日本製薬医学会，日本医薬品情報学会）新設セッション「Clinical Safety」
「仮題 基礎から学ぶベネフィット・リスク評価－医療現場へのフィードバックを考える」
海外規制の動向，国内規制の動向

□一般演題（口演、ポスター）

*若手の優秀研究発表も募集いたします（対象者は2013年6月17日の時点で40歳未満の方）。

発表形式：PCプロジェクターによる口頭発表とポスター発表

演題募集期間：2012年11月30日（金）～2013年1月28日（月）

参加登録期間：2012年11月30日（金）～2013年4月10日（水）

懇親会：2013年6月18日（火） ホテルニューオータニ幕張（予定）

事務局：山浦 克典（国立大学法人 千葉大学大学院薬学研究院）

第40回日本毒性学会学術年会事務局

〒260-8675 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学大学院薬学研究院高齢者薬剤学内

電話：043-226-2878 Fax：043-226-2879

e-mail：jsot2013@ML.chiba-u.jp ホームページ：http://www.ipecc-pub.co.jp/jsot2013/